

情熱「境」
JOUNETSU-SAKAI

第13回

思いをつなぐ笑顔の架け橋
ながぬま
長沼
しずか
静

情熱「境」では、境町在住・出身の方、また境町に縁のある方で、芸術、音楽、スポーツ等、様々な分野で活躍されている方を紹介します。
第13回は、境町出身で、小田原にある畑とレストラン、パティスリー、プーランジェリー、直売所を備えたコラボレーションレストラン「一夜城ヨロイツカ・ファーム」で店長として活躍されている「長沼 静」さんです。



『一夜城ヨロイツカ・ファーム』店長

略歴
□長沼 静（ながぬま しずか）
□1985年2月3日生まれ
2006年
国際テクニカル調理師専門学校パティシエコース卒業
栃木県野木町でパティシエとして活躍
2010年
トシヨロイツカ（六本木ミッドタウン）で販売員として活躍
2011年
アトリエ・ヨロイツカ（東京都杉並区）で店長を務める
2011年11月5日
一夜城ヨロイツカ・ファームオープン、店長として活躍

「一夜城ヨロイツカ・ファーム」
（神奈川県小田原市）
ホームページURL:
<http://www.grand-patisier.info/ToshiYoroizuka/farm/>

◎始まりは母の味
パティシエを目指したきっかけは、小さい頃、母がよく作ってくれた素朴なケーキの味でした。食べた時の美味しくて嬉しかった思い出が今でも強く残っています。その頃から、「自分で作ったケーキで多くの人を喜ばせたい」という思いが生まれました。高校卒業後、調理師専門学校に通い、栃木県の洋菓子店で、パティシエとして勤務しました。

◎心も体も元気に
今後は、経営側から、パティシエに戻る予定です。管理栄養士の資格をとり、きちんと知識を得ながら、旬の素材や、食べ方などを工夫して、「心も体も元気になる体に良いお菓子」を作り、広めていきたいと思っています。

◎境町へ
のんびりした雰囲気のある、人のあたたかい町だと思います。これからは地域のあたたかさや田畑などの自然を大切に、農業が活性化していくて欲しいです。そして、いつか境町で、地元の食材を活かした、体に良いお菓子を作っていけたらと考えています。



▲看板メニューの「一夜城ヨロイツカロール」地元産の蜜柑ジャムが爽やかなアクセントになっています



▲店内はカンツリー調の暖かい雰囲気



▲小田原の新鮮野菜の直売所



▲ショーウィンドウには様々なケーキが並びます

俳句

兼題「夏の雲・蛭狩・金魚草」他当季雑詠

六月二十日 境町文化協会俳句部

夏の雲千秋楽ののぼり旗

久子

※大相撲を観戦してきた。空には入道雲が我が物顔で幅を利かせている。周囲には千秋楽ののぼり旗が聳えようのない寂寥感を漂わせている。『夏の雲』と『千秋楽』ふたつの対比により人生の哀感が一段と深く感じられる。

蛭狩り方角忘れ迷い道

登

※今日では、地の利に明るい地元での蛭鑑賞は不能となった。バスツアーなどによる観光地での蛭狩が専らとなった。来た道がすっかり分からなくなった経験者も多い。ユーモアがある。

我が庭の幼き記憶蛭狩

とき

※昭和四十年代の頃までは町内の水田に子等を連れて行った記憶がある。作者の幼い頃、即ち九十年も以前の事であれば、然もあろう。素直に書くことができる。古き良き時代が偲ばれる。

ネクタイも個性それぞれ金魚草

弥生

群れ泳ぐ金魚のような金魚草

正六

一鉢に和む日々有り金魚草

仁

棒電池ひとつぶら下げ蛭狩

香

焼けた砂裸足に熱し夏の雲

健二

老ゆる日の一日一日や夏の雲

ちよ

金魚草生あるとき動きかな

つね

蛭火の一つ二つと瀬を点し

ちから

赤白黄風に泳いで金魚草

省三

手で囲い子に見せ放つ蛭狩り

信子

追憶の彼方に君と蛭狩

な

雲の峰崩れる気配畦の道

まも

曲り行く車両のみ込む夏の雲

幸子

夏の雲空の乱れに子ら急ぐ

みえ

三束稲仕事せかせる夏の雲

光夫

蛭狩り平家の里の悲話に泣く

きみ

琉球の海の碧さや夏の雲

映

蛭狩織りなす光のハーモニー

短歌

境短歌会 山鳩

一歩出し又一歩出す幼児はパパとママとの声援うけて

川村 米子

新緑の奥入瀬沿いの道ゆけばマイナスイオンの空気さわやか

風間 リヨ子

五ヶ月の孫を構って笑いに話題膨らむ夕餉の美味

川上 ヒサ

診察を終えて結果はすべて良し医師の言葉に心晴れやか

稲田 美重子

娘と共に眺め来たりし猪苗代磐梯山の緑美し

飯田 俊子

六月の風吹く利根は流れ行く春から初夏へと季節変りて

松岡 美智子

木漏れ陽に鳥の啼く声こだまする主なき今我が里の山

本島 いと子

国道をかるがも一家が横断し見守るバスやトラックまで

五月女 三枝子

冬物を整理する手も汗ばみて梅雨の最中の暑き一日

鈴木 喜与子

瀬戸物の黄色い狸を買い求め友と語らう今日の幸せ

桜井 レイ

（茂林寺にて）

斉藤 敬子

いつしかに緑ふかまる水張田に浮きて見えおり白鷺一羽

齊藤 敬子

暑い夏も暦の上で八日には立秋となります。今月はお盆の月でもありご先祖様をお迎えしてお参りする月でもあります。又十五日には終戦記念日もあり、多くの人々の犠牲の上に今日の平和がある事に感謝し、暑さに負けない様に気をつけ乍ら日々の情景や心の有り様を表現して行けたら良いと思います。

意外な事実▶約80%の都道府県で地元紙が県内シェアNo.1と言う事実!

悪い、

のは茨城新聞社でした!

県内の細かなニュースはテレビ、ネットには登場しません。
なのに、残念ですが「地元紙」茨城新聞のシェアは第3位です。
悪いのはアピール不足の茨城新聞社です!でも、地元の話題や県内スポーツ等、皆さんの身近なニュースは質、量ともNo.1!
是非この機会に無料で体感してください。

無料進呈
茨城新聞を7日間無料で毎朝、お届け致します。

茨城新聞社 TEL 0120-029-218
お申込は
お申し込みは
お申し込みは